

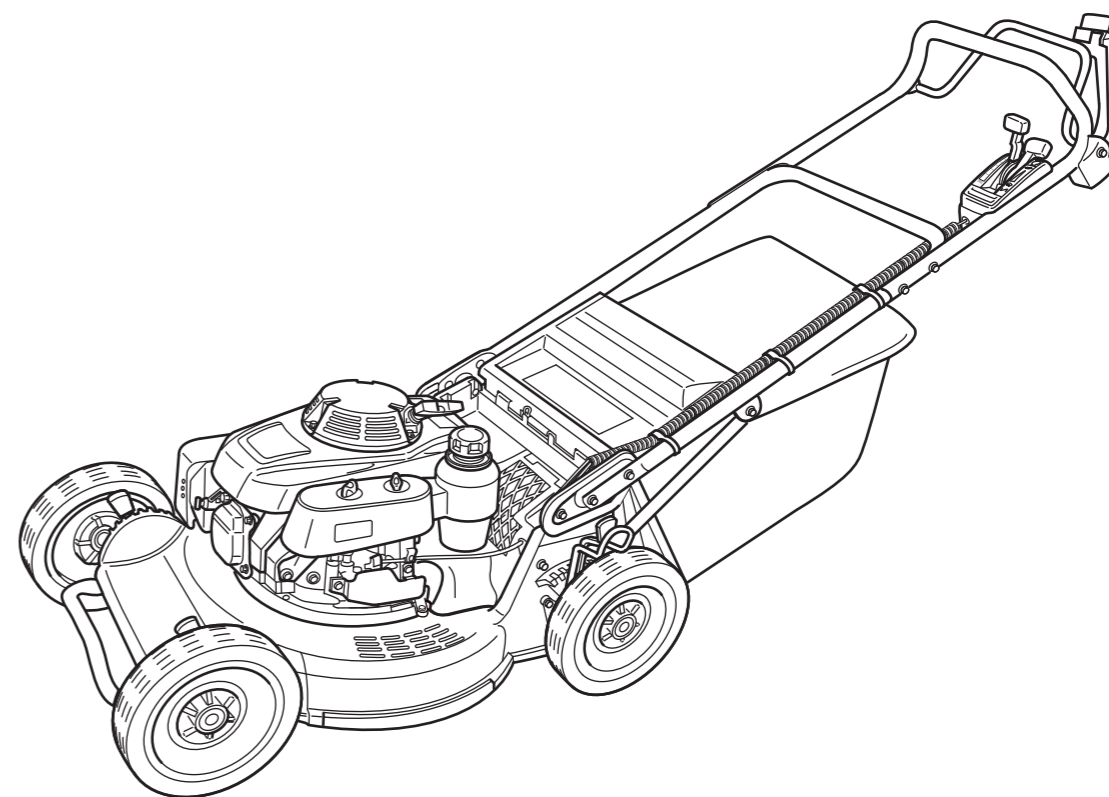


株式会社 **新宮商行**

取扱説明書

シンガウ 芝刈機

SLM21450HBP



株式会社 **新宮商行**

関東支社 (機械本部)	〒270-2231 千葉県松戸市稔台 6-7-5	☎047-361-4701 (代)
北海道営業所	〒047-0032 北海道小樽市稲穂 2-1-1	☎0134-24-1313 (代)
東北営業所	〒963-0547 福島県郡山市喜久田町卸 1-37-1	☎024-959-6212 (代)
東京営業所	〒270-2231 千葉県松戸市稔台 6-7-5	☎047-361-6831 (代)
名古屋営業所	〒465-0025 愛知県名古屋市名東区上社 5-203	☎052-702-2929 (代)
大阪営業所	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町 3-33-29	☎06-6380-0381 (代)
高知出張所	〒781-5102 高知県高知市大津甲 515-1	☎088-878-5400 (代)
福岡営業所	〒812-0897 福岡県福岡市博多区半道橋 1-2-1	☎092-473-1501 (代)

ご使用前に、必ずお読みください

1. はじめに(必ずお読みください)

- このたびは弊社の芝刈り機をご購入いただき、ありがとうございます。



- お客様は必ずこの取扱説明書を含むすべての取扱説明書を注意深く読み、内容を理解して使用してください。

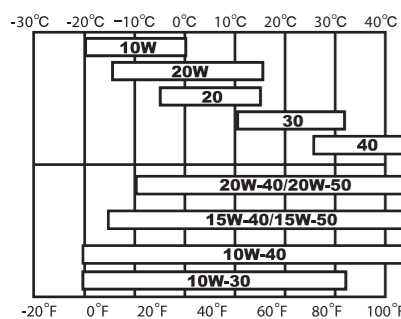
- もし内容を理解しないで使用すると、芝刈り機の危険とその回避方法を知らないために、予期せぬ人身事故を起こしたり、芝刈り機やその他の財産に損害を与える恐れがあります。

- 本取扱説明書の記載に従わなかった場合、損害の保証は致しかねますのでご了承ください。

- 決して子供には本機の取り扱いをさせないでください。

目次	
1. はじめに	1
2. 取扱説明書について	1
3. 安全に使用するために	1
4. 各部の名称と機能	3
5. 仕様一覧	4
6. 付属品一覧	4
7. 運転	5
8. 組付け	6
9. 点検・整備	8
10. 運搬	9
11. 長期の保管	9
12. 廃機	9
13. トラブルシューティング	9
14. ブレードの点検・交換	10
15. ブレードの取り付け・取り外し	10

エンジンオイル選択表 (HONDA)



エンジンオイルはAPIクラスSF,SGを使用してください。また、SAE 10W-30は、全ての温度の範囲で推奨します。表1を見て、使用する温度に応じたエンジンオイルを使用してください。詳細は、エンジンの取扱説明書を参照してください。

注】
工場出荷時はエンジンオイルが給油されていません。初回起動前に必ずエンジンオイルを給油してください。

2. 取扱説明書について

- 取扱説明書を紛失、または破損した場合は、販売店にご相談ください。
- 仕様変更等により、イラスト、内容が実機と異なる場合があります。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にこの取扱説明書を渡してください。

3. 安全に使用するために(必ずお読みください)

この章の内容と各章の警告を厳守し、一般的に危険とされる行動をとってはいけません。

3.1 安全に関する表示

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、軽傷を負うか装置の故障の可能性のあるものを示しています。

3.2 警告ラベル

- この芝刈り機には、図-1が示すように警告ラベルが貼付されています。
- 警告ラベルは常に読める状態を維持して下さい。
- 警告ラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルを貼ってください。

① 警告 ケガや死亡事故を起こさないために

取扱説明書、及び本機に貼ってある危険・警告・注意ラベルを全て読まないで、本機を運転してはいけません。

<ul style="list-style-type: none"> 作業を開始する前は <ul style="list-style-type: none"> 飛散物などから身を守るため、適正な服装(保護メガネ、手袋・長ズボン・安全靴など)で作業してください。 飛散するおそれのある異物(空き缶・釘・石・ボールなど)を取り除いてから作業を始めてください。 火気を近づけないでください。感熱に引火するおそれがあります。 ブレード取付ボルトのゆるみがないこと、ブレードに「ひび」「穴」などの異常がないことを確認してください。 作業場内に人やペットを入れないでください。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業をするときは <ul style="list-style-type: none"> このガードを開けるときは、必ずエンジンを停止してください。 運転中はハウジングに手や足を近づけないでください。 点検・清掃するときは、必ずエンジンを停止してください。 ガード・カバーなどの安全保護具を取り外して作業しないでください。 25度以上の急傾斜地では使用しないでください。 1日の作業が終わったら エンジンを停止し、必ず燃料コックを閉じてください。
---	--

② 刃物を点検整備するときは、その前に必ずプラグキャップを取りはずしてください。
注意

③ 危険

作業中は、刃物に手や足、身体を近づけないで下さい。
刃物に手をかけないで下さい。
飛散物により周囲の人や物などに損傷をおよぼす危険があります。

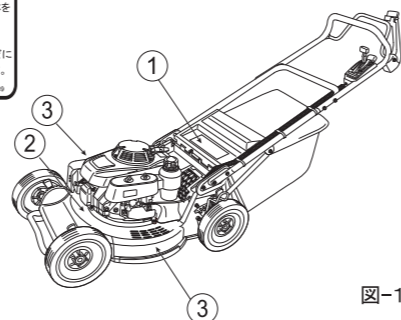


図-1

3.3 ブレードについて

この芝刈り機には、高速で回転するブレードが取り付けられています。ブレードは鋭利で危険な刃物であるため、下記の注意を守らずに作業を行うと非常に危険です。(9.7、14、15章参照)

危険

- エンジンの起動中は、カバーの下から足や手を入れないでください。
- 以下の時はエンジンを停止し、プラグキャップを外してください。点検・保守／交換／機械のトラブル／その他のトラブル発生(枝の引っかかり等)

3.4 ガソリンの取扱い

ガソリン取扱い時の事故防止のため、次のことを守ってください。

危険
(別冊のエンジン取扱説明書を参照してください。)

使用燃料

- 無鉛ガソリンだけを使用してください。アルコール入りのガソリン、有鉛ガソリンや、汚れたガソリンを使用しないでください。またオイルを混ぜてはいけません。ガソリン以外の燃料を使用した場合、火災事故や故障の原因となります。

補給時の注意

- ガソリンは非常に高い引火性、爆発性を持っているため、タバコやその他の発火する可能性のある物を近づけないでください。火気を使用している近くで給油しないでください。
- エンジン起動中や、エンジンが熱い状態で燃料タンクキャップを開けたり給油を行わないでください。
- 燃料タンクキャップを確実に締めてください。ガソリンがこぼれた場合は、ただちに布で拭き取ってください。蒸発するまでいかなる発火源も近づけないでください。
- 異物が混入しないように注意してください。
- 燃料漏れをしていないか確認してください。
- ガソリンを屋内で給油するときは必ず換気してください。換気の良い場所で行ってください。

貯蔵に関する注意

- ガソリン専用の容器(金属製)に入れ、冷暗所に保管してください。
- 灯油等と区別して保管してください。
- ガソリンの貯蔵量は、使用する国の法律を守ってください。

14. ブレードの点検・交換

注意

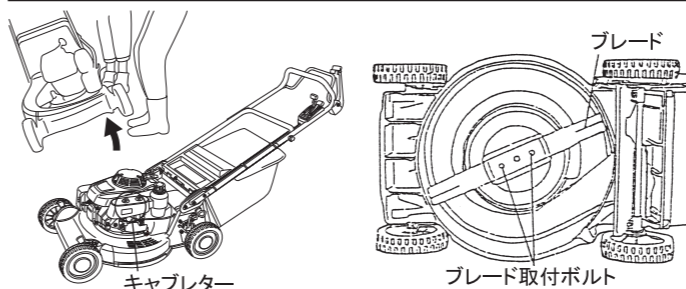
- 安全に作業を行うために、ブレードの運転前点検を行ってください。ブレードの磨耗、破損、変形やブレード取付ボルトのゆるみを放置すると、作業中ブレードが折損するなどして、障害事故を起こすおそれがあります。

- 交換するときは、当社指定の新しい部品と交換してください。

- ブレードの取り付け部は工具を使用し、ゆるみのないことを確認してください。[指定トルク: 29~39N・m (300~400kgf・cm)]

- ブレードの点検・交換をするときは、エンジンを停止し点火プラグキャップを外してから厚手の手袋を着用して行ってください。ブレードでケガをおそれがあります。

- 本機を傾けるときは、燃料コックを閉じ、エンジンのキャブレター側が上になるように右側に倒します。キャブレターが下になると、ガソリンがこぼれ危険です。ガソリンやオイルがこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布で拭き取ってください。



本機を傾けたまま放置しないでください。始動が困難になります。

始業前の点検

注意

- ブレードの取り付け部は工具を使用し、『ゆるみ』のないことを確認してください。
- ブレードに『ひび』『かけ』等の異常がないことを確認してください。

作業中の注意

注意

- 運転中に異常な振動や音を感じた場合、ブレードが石や切り株等の異物に当たった場合は、ただちにエンジンを停止し、ブレードが止まったことを確認した後、点検を行ってください。
- ブレードは鋭く危険です。運転中は絶対に手足をブレードに近づけないでください。

15. ブレードの取り付け・取り外し

注】
エンジンの保守に関する詳細は、エンジンの取扱説明書を参照してください。

ブレードの取り付け

- BBC(ブレード・ブレーキ・クラッチ)にファンAssyを取り付ける。
- ブレードを取り付け、ブレード取付ボルトを手でいっぱいまで締め付ける。
- ファンAssyが確実に取り付けられていることを再度確認する。
- 工具を使用し、ブレード取付ボルトを指定トルクで締め付ける。[指定トルク: 29~39N・m (300~400kgf・cm)]



- 上の写真のように、ブレードを取り付け、ブレード取付ボルトを手でいっぱいまで軽く締め込み、ファンAssyを矢印の方向に動かして確実に取り付けられていることを再度確認してください。

- 工具を使用し、2本のブレード取付ボルトを均等に指定トルクで締め付けてください。

- ※ ブレード取付ボルトを手で締め付ける時に、ネジ部に異常がないことを確認してください。

- 異常がある場合は交換・修理を行ってください。

1 ブレード(S)に欠け、曲がり、摩耗がないか確認してください。(図-33参照)

2 ブレード(S)・ブレード取付ボルト(T)に「磨耗」「破損」「変形」がある場合は、当社指定の新しい部品と交換してください。

3 ブレード取付ボルト(T)が指定トルクで締め付けられているか確認してください。(図-34参照)

(ブレード取付ボルト(T)の締め付けトルク:29～39Nm)

9.7.2 ブレードの着脱

取外し

1 ブレード取付ボルト(T)を緩め、ブレード(S)を外してください。

取付

1 ブレード取付部のまわりのゴミや草を取り除き、汚れを落としてください。

2 ブレード取付ボルト(T)を手でいっぱいまで締め付けてください。

3 ブレード(S)を確実に組み付けてください。

4 ブレード取付ボルト(T)が指定トルクで締め付けられているか確認してください。(図-34参照)

(ブレード取付ボルト(T)の締め付けトルク:29～39Nm)

注】 研磨したブレードはバランスのチェックが必要です。中央の穴にドライバなどを通して、ブレードが水平になるように研磨してバランスを取ってください。

9.8 各部の点検

全てのボルト・ナット・ネジ類が確実に締まっているか確認してください。

10. 運搬

⚠ 危険

エンジンを停止し、プラグキャップを取外してください。本機を傾けたまま放置・運搬しないでください。(3.5.5 章参照)

1 燃料コックを閉めてください。(7.2.2章参照)

2 ハンドルは状況に応じて取り外してください。もし外した場合は、ネジを無くさないよう元の位置に仮締めしてください。

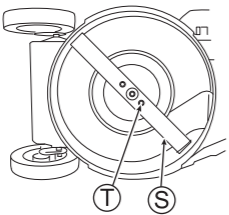


図-34

11. 長期の保管

11.1 保管

30日間以上エンジンをかけない場合、次の作業を行ってください。

⚠ 危険

以下の作業の前にエンジンを停止し、プラグキャップを取外してください。

1 エンジンオイルを交換し(9.4章参照)、5分ほどアイドリング運転してください。

2 燃料タンクおよびキャブレターから燃料を抜いてください(図-35参照)

3 エアクリーナを清掃してください。(9.5章参照)

注】

詳細はエンジンの取扱説明書を参照してください。キャブレター内に残った燃料を排出することで、エンジンのかかりが悪くなるなどの燃料を原因とするトラブルを防止します。

4 ブレード及び各部を清掃し、締め付けを点検してください。

5 オイルを染み込ませた布で金属部分を拭いてください。

6 点火プラグを外し、シリンダ内にエンジンオイルを5-10cc程度注入してください。

7 点火プラグを清掃してから取り付けてください。(9.6章参照)

8 リコイルスタータを2.3回引いたのち、重さを感じる位置までゆっくり引っ張ってください。

9 グラスバッグの清掃をしてください。

10作業終了後、乾燥し埃の少ない平らな場所でカバーを掛けて保管してください。

注】

異常のある部品は修理または交換してください。交換部品は指定のものを使用してください。

12. 廃棄

・ エンジンオイル、ガソリンおよび芝刈り機本体が不要になった場合は、お住まいの国の法律または地方の条例に従って処分するか、お買い上げ店にご相談ください。

・ 土壌汚染、水質汚染の原因になるので絶対に不法投棄はしないでください。

・ ガソリンやオイルを拭き取った布は、一般ごみとは分けて処分してください。

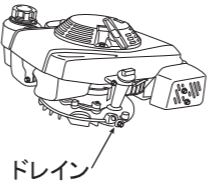


図-35

3.5 一般的な注意事項

3.5.1 作業前の注意

⚠ 危険

屋内や換気の悪い場所でエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまり、ガス中毒を引き起こします。



・ 部品が確実に組み付けられているか確認してください。ブレードは入念に確認してください。(9.7、14、15章参照)

・ 本機は5°C以上40°C以下の環境でご使用ください。外気温がこの範囲を超えるような環境で使用すると、作動不良や故障、事故を起こす可能性があります。

・ 無理な姿勢にならないようにハンドルの高さを調整して使用してください。

・ 作業範囲内に小石や棒切れ等が落ちていないか確認し、あった場合は全て取り除いてください。

・ だぶつきの無い長袖、長ズボンを着用してください。

・ 裸足やサンダル等を履いて使用しないでください。

・ アルコールや薬物を飲んだ後、または風邪など体調の悪いときに使用しないでください。

・ 炎天下で長時間の作業をしないでください。

3.5.2 作業中の注意

⚠ 危険

ハウジング(4.2章参照)の下から足や手を入れしないでください。

⚠ 警告

・ 子供やペットを作業範囲内に近づけないでください。
・ グラスバッグの着脱または刈高さ調節時は必ずエンジンを停止し、点火プラグを外してください。
・ 作業中に異常な振動・音・臭いを感じたとき、石などの硬いものに接触したときは、直ちにエンジンを停止し、点火プラグを外して点検を行ってください。

・ 作業者以外は近づけないでください。もし第三者が近づいた場合は、ブレードを停止してください。

・ マフラーの排気口を塞がないでください。

・ 平坦でない場所の芝生・雑草を刈るときは特に注意してください。本機が傾いてブレードが見えたり、草や石を弾き飛ばす恐れがあります。

・ 斜面を刈るときは、斜面を横切るように刈り取ってください。絶対に斜面に向かって刈り取ってはいけません。

・ 斜面で方向を変えるときは特に注意してください。

・ 急な斜面では運転してはいけません。

・ 作業は明るい時間帯か、十分な明るさの照明の下で行ってください。

・ 芝・雑草が濡れているときは作業しないでください。足を滑らせて転倒する恐れがあります。

・ 作業中はハンドルを両手でしっかり持ち、足元に注意して行ってください。決して走って作業しないでください。

・ エンジンを始動するときは、走行レバーとブレードレバーを離してください。

・ 回転部分には手・足を近づけないでください。

・ エンジン起動中は持ち上げないでください。

・ ガードを外したり、開けたまま作業しないでください。

・ 本機から離れるときは必ずエンジンを停止してください。

・ 作業場を移動するときなど、草刈り作業以外のときは必ずブレードを停止してください。

3.5.3 作業後の注意

作業後は草クズやゴミを取り除き、本機を点検して部品の欠落や異常がないか確認してください。

3.5.4 点検・整備時

⚠ 危険

屋内や換気の悪い場所でエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまり、ガス中毒を引き起こします。

⚠ 警告

・ 点検・整備・修理・清掃を行うときはエンジンを停止し、プラグキャップを外してください。
・ ブレードを研磨するときは保護眼鏡を着用してください。

・ ブレードの点検をするときは皮手袋を着用してください。

・ プラグキャップを外すときはやけどをしないよう注意してください。

・ エンジン周りの保守は、エンジンが冷えてから行ってください。

・ 本機を傾けるときは、燃料コックを閉じ、エンジンのキャブレター側が上になるように右側に倒します。キャブレターが下になると、ガソリンがこぼれ危険です。ガソリンやオイルがこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布で拭き取ってください。

・ やぶれや損傷があれば本機を使用しないでください。部品は交換し、修理してください。絶対に修正しないでください。交換部品は当社指定のものを使用してください。ブレードも当社指定のものを使用してください。同等の品質ではない部品は機械に損傷を与え、安全を阻害する恐れがあります。

3.5.5 自動車で運搬するとき

⚠ 危険



エンジンを停止してください。

⚠ 警告

・ 荷台からハンドルがはみ出さないよう、本機をロープで固定してください。
・ 本機を倒したまま運搬・放置しないでください。始動性が悪くなる可能性があります。
・ 燃料タンクとキャブレターの燃料を抜いてください。
・ 積み込み、積み降ろしの際、歩み板を使用する場合は強度・幅・長さ・滑り止め・フックのあるものを使用してください。
・ 本機を持ち上げる場合は、二人以上で作業を行ってください。
・ 滑り止めの付いた手袋を着用してください。
・ 自動車の運転は急発進・急加速・急停止を避けてください。

3.5.6 エンジン

・ エンジンに関する情報は、別冊のエンジン取扱説明書を参照してください。

・ スロットルレバーを“”位置にしてもエンジンが停止しない場合は、“”位置にしてエンジンを停止してください。

3.5.7 その他

⚠ 危険

・ 子供が触れないように保管してください。
・ この芝刈り機を改造しないでください。
・ 草刈以外の異なる用途に使用しないでください。

・ エンジン部分は熱くなるので、草など燃えやすいものを堆積させると火災の原因になります。

・ 刈高さ調整はエンジンを停止してから行ってください。

・ 本機から離れるときや点検作業時は、平らな場所に本機を置いてください。

13. トラブルシューティング

これらの対策を行っても正常に戻らない場合は、販売店にご相談ください。むやみに分解を行わないでください。

現象	原因	参照頁
エンジンがかからない	燃料がない	7.1.2
	エンジンオイルが規定量入っていない	7.1.1
	スロットルレバーがSTOPIになっている	7.2.1
	プラグキャップが外れている	7.2.1
	シリンダ内に過度のガソリンが吸入されている	
かかりが悪い エンジンの力が弱い	エアクリーナが汚れている	9.5
	エアクリーナが汚れている	9.5
	キャブレターが詰まっている	
	水がガソリンタンクやキャブレターに入っている	
	燃料タンクキャップが開いている	
エンジンのオーバーヒート	スロットルワイヤーの調整不良	
	ガソリンが汚れている	
	点火プラグの隙間が不適正	9.6
	エアクリーナが汚れている	9.5
	冷却フィンが汚れている	
異常に振動する	エンジンオイルが不足している	7.1.1
	リコイルスタータが詰まっている等	
	ブレードやエンジンの取付けが緩んでいる	9.8
	ブレードのバランスが悪い	9.7.2

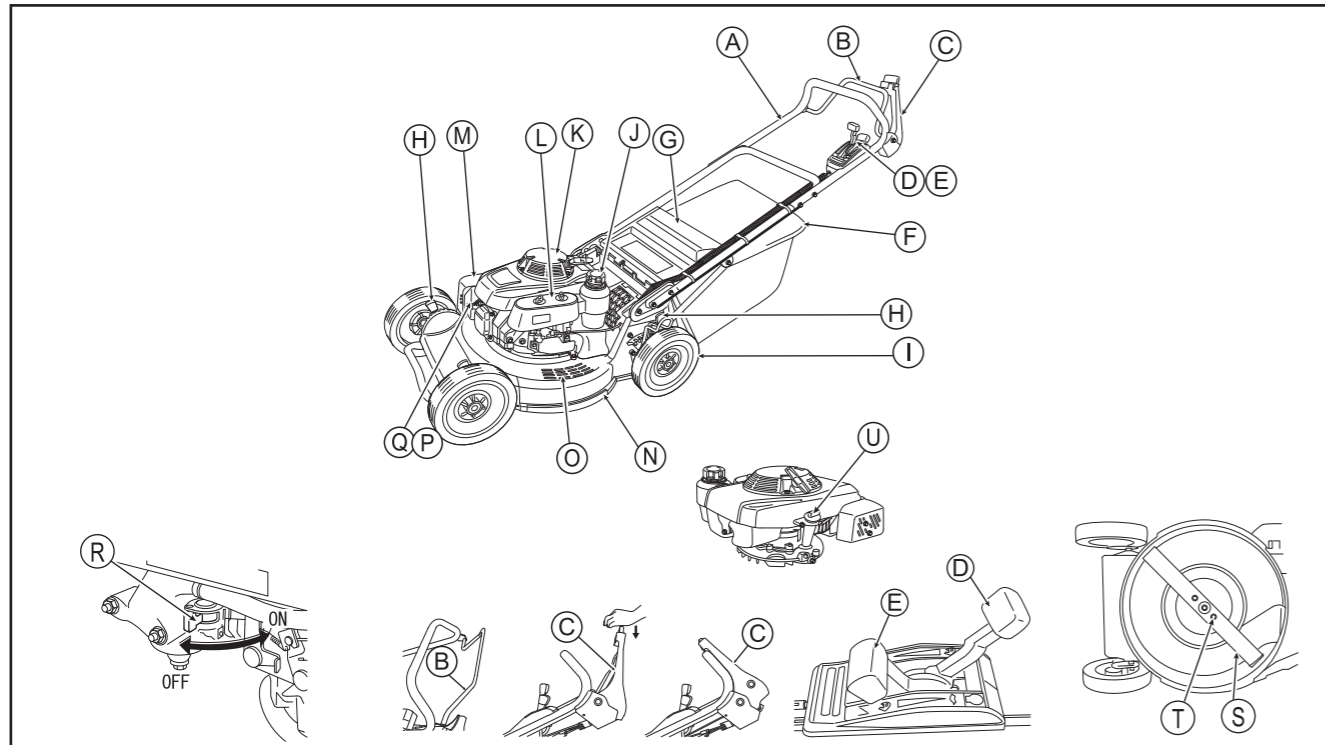
注】 エンジンのトラブルは別冊のエンジンの取扱説明書を参照し、対処できない場合は販売店に調整を依頼してください。

4. 各部の名称と機能

4.1 使用目的

この芝刈り機は、芝・雑草を刈ることを目的に設計、製造されています。

4.2 各部の名称と機能



注】 イラストは実機と異なる場合があります。

No.	名称	説明
A	ハンドル	ここを持って芝刈り機を操作します。
B	走行レバー	走行、停止を制御するレバーです。 前方に倒す：芝刈り機が走行を開始します。 離す：走行を停止します。
C	ブレードレバー	ブレードを回転、停止するレバーです。 ボタンを押して前方に倒す：ブレードが回転(ボタンを押さずに操作したときはブレードは回転しません。) 離す：ブレードの回転が停止。
D	変速レバー	走行速度を調整するレバーです。
E	スロットルレバー	エンジンの回転を調整するレバーです。 (位置) (意味) (用途) " " チョーク・・・エンジン始動 " 🏎 " 高速・・・芝刈作業 " 🐢 " 低速・・・アイドリング " 🛑 " 停止・・・エンジン停止
F	グラスバック	刈り取った芝を受けるバッグです。
G	ガード	
H	刈高さ調整レバー	刈高さを調整するレバーです。(各車輪に設置。)
I	車輪	
J	給油口	ガソリンの供給口です。
K	リコイルスタータ	ノブを引っ張ってエンジンを始動します。
L	エアクリーナ	
M	マフラー	
N	ハウジング	
O	ステップ	エンジン始動時に足を置きます。
P	点火プラグ	
Q	プラグキャップ	
R	燃料コック	燃料を供給します。"ON"：燃料供給 "OFF"：燃料停止
S	ブレード	
T	ブレード取付ボルト	ブレードを取り付けるためのボルトです。
U	オイルタンクキャップ	オイル供給口のキャップで、オイルゲージが付いています。

9. 点検・整備

注】

エンジンの保守に関する詳細は、エンジンの取扱説明書を参照してください。

9.1 清掃

- 本機および警告ラベルが汚れた場合は、汚れを拭き取ってください。
- 故障の原因になるので、直接ホース等で水をかけないでください。
- 清掃後、乾拭きして水気をよく取り、油を染み込ませた布で金属表面を拭いてください。
- グラスバックはホースで水をかけながら清掃してください。乾燥後、使用してください。

9.2 チェックリスト

稼働時間	点検項目	毎回	時間		
			25	50	100
エンジンオイル (7.1.1, 9.4)	点検	○			
	交換			○*	
エアクリーナ (9.5)	清掃		○		
ボルトの緩み (9.8)	点検	○			
燃料 (7.1.2)	補給	○			
点火プラグ (9.6)	清掃				○
	調整				○
ブレード (9.7)	点検	○			
ブレードボルト (9.7.1)	点検	○			
グラスバック (7.1.3)	点検	○			
	清掃	○			
スロットルワイヤー (8.2.1)	調整				○
走行ワイヤー (8.2.3)	調整				○
ブレードワイヤー (8.2.2)	調整				○
	点検				○
変速ワイヤー (8.2.4)	調整				○
バルブ隙間	調整				○**
燃焼室	清掃				○**
燃料タンク	清掃				○**
ストレーナ	清掃				○**
燃料チューブ	点検				○

* 購入後、初回のみ25時間使用後にオイル交換を行ってください。以後、50時間毎に汚れ具合に応じてオイル交換してください。

** この点検項目は、整備技術及び特殊工具が必要ですので、販売店へご相談ください。()内はこの取扱説明書の参照項を示します。

9.3 各部の注油

各部のスムーズな動作を保つために、油差しで定期的に軸受け部分に注油を行ってください。

9.4 エンジンオイルの交換

注】

- エンジンオイル排出のためエンジンを傾けるときは、先にガソリンを抜いてください。
- 本機を傾けるときは、燃料コックを閉じ、エンジンのキャブレター側が上になるように右側に倒します。キャブレターが下になると、ガソリンがこぼれ危険です。ガソリンやオイルがこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布で拭き取ってください。
- 排出後のエンジンオイルは各国の法令に従い適正に処理してください。

注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなど高温になっているので、やけどに十分注意してください。

- オイルタンクキャップを外してください(7.1.1章参照)。
- ドレンからエンジンオイルを排出してください。(図-28参照)
- 排出終了後、新しいエンジンオイルを入れてください。

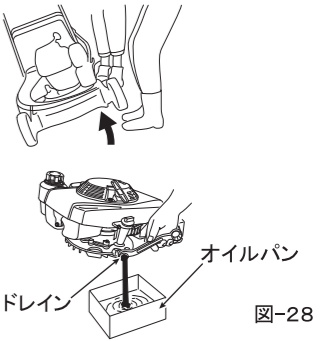


図-28

9.5 エアクリーナ (図-29参照)

- 取付ボルト(a)を外してカバー(b)を開けてください。
- エレメント(c)の汚れがひどい場合は清掃してください。
- エレメント(c)を元の位置に戻し、取付ボルト(a)でカバー(b)を閉めてください。

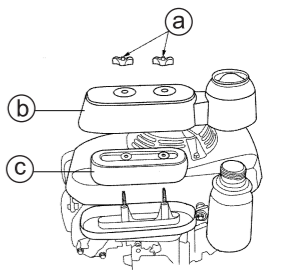


図-29

9.6 点火プラグ

- プラグキャップ(Q)を外してください。(図-30参照)
- 付属のプラグレンチで点火プラグ(P)を外してください。(図-31参照)
- 点火プラグ(P)に大量のカーボンが付着している、絶縁体にひびが入っている、破損している等の場合は交換してください。
- 電極に付着しているカーボンを取り除き、電極の隙間を0.7mmに調整してください。(図-32参照)
- 点火プラグ(P)とプラグキャップ(Q)を取り付けてください。

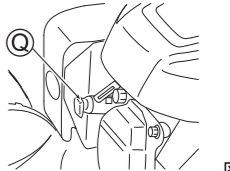


図-30



図-31

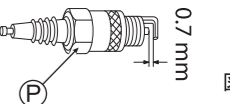


図-32

9.7 ブレード

注】

本機を傾けるときは、燃料コックを閉じ、エンジンのキャブレター側が上になるように右側に倒します。キャブレターが下になると、ガソリンがこぼれ危険です。ガソリンやオイルがこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布で拭き取ってください。

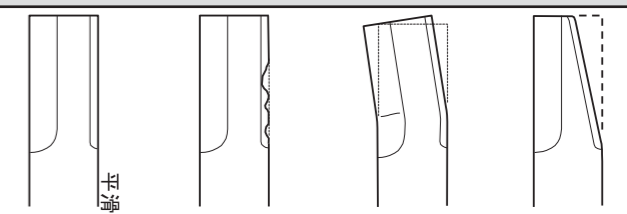
9.7.1 ブレード取付けボルトの点検

危険

ブレードを点検するときは、エンジンを停止し、点火プラグを外してください。

注意

ブレードを点検・着脱するときは、厚手の手袋を着用してください。



新品 欠け 曲がり 摩耗 図-33

8.2 ワイヤの調節

注】

各ワイヤーは、正しく調整されていないと性能不良や故障につながります。

8.2.1 スロットルレバー (図-23, -24参照)

スロットルレバー (E) が “\” の位置でチョークが作動するように調整します。

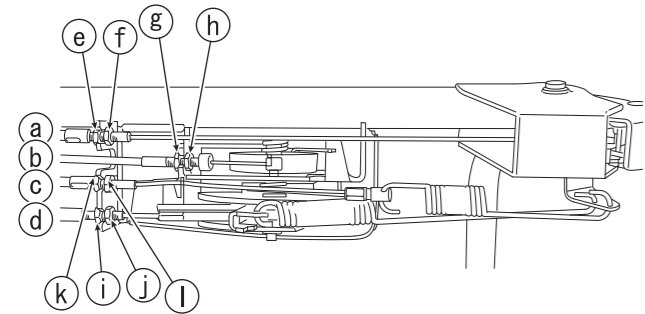
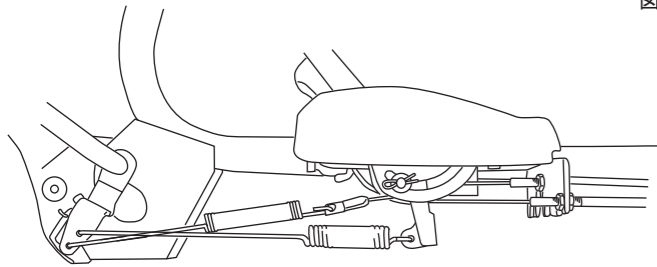


図-23



1 スロットルレバー (E) を高速位置 “\” にしたとき、エンジンのコントロールパネルの調整穴とレバーが合っていることを確認してください。

2 調整が必要な場合、スロットルワイヤー (b) のロックナット (h) を緩めてアジャスタ (g) を回して調整します。

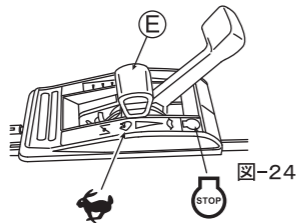


図-24

3 最適な位置にあわせてロックナット (h) を締め付けます。

4 エンジンを始動し、スロットルレバー (E) を “STOP” の位置にし、エンジンが確実に停止することを確認してください。

8.2.2 ブレードレバー (図-23, -25参照)

黄色ボタンを押した状態でブレードレバー (C) とハンドルの距離が 50~75mm の位置でブレードが回転するように調整します。

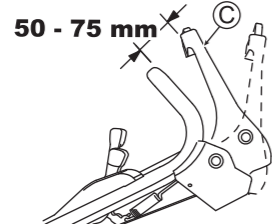


図-25

1 調整が必要な場合、ブレード用ケーブル (a) のロックナット (f) を緩めてアジャスタ (e) を回して調整します。

2 最適な位置にあわせてロックナット (f) を締め付けます。

3 ブレードレバー (C) を離すと確実にブレードが停止することを確認してください。

8.2.3 走行レバー (図-23, -26参照)

走行レバー (B) とハンドルの距離が 40~80mm の位置で走行 (クラッチ・イン) するように調整します。

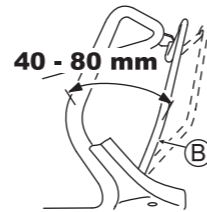


図-26

- 調整が必要な場合、HSTバイパス用ケーブル (c) のロックナット (l) を緩めて、アジャスタ (k) を回して調整します。
- 最適な位置にあわせてロックナット (l) を締め付けます。
- 走行レバー (B) を離れた状態で、後方に本機を引っ張ることができることを確認してください。

8.2.4 変速レバー (図-23, -27参照)

<調整時期>

初回1ヶ月または20時間運転時、以降6ヶ月または100時間運転毎

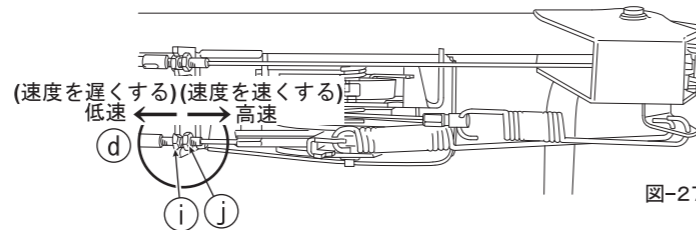


図-27

- 調整が必要な場合、HSTスピードコントロールケーブル (d) のロックナット (j) を緩めて、アジャスタ (i) を回して (図-27) のように調整します。
- 最適な位置にあわせてロックナット (j) を締め付けます。
- エンジンをかけ、変速レバー (D) を操作し、走行速度が切り替わることを確認してください。

注意

高速側にケーブルを張り過ぎないでください。性能低下や故障の原因につながります。

注】

上記の方法で調整しても正常に作動しない場合は、販売店に調整を依頼してください。

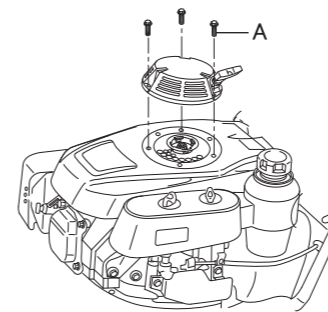
5. 仕様一覧

型式	SLM21450HBP
エンジン	HONDA GXV160
エンジン型式	空冷4サイクル立軸OHV 単気筒ガソリンエンジン
使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
排気量 (内径 x 行程)	163 cm ³ (68 mm x 45 mm)
最大出力	3.2 kW / 3,600 rpm
最大トルク	9.6 Nm / 2,500 rpm
作業回転数	3,000 rpm
燃料タンク容量	1.8 L
エンジンオイル容量	0.65 L
点火方式	無接点式マグネット点火
点火プラグ	NGK: BPR 5 ES / DENSO: W 16 EPR-U
始動方式	リコイル式
外形寸法 (L x W x H)	1,830 x 580 x 1,270 (mm)
乾燥重量	68 kg
グラスバッグ 容量	75 L
刈幅	530 mm
刈高さ	22,32,42,52,62,72,82 mm
走行速度	HST (油圧式無段変速) 0~1.7 m / sec
車輪径	9.6" アルミホイール

※エンジン最大出力は、エンジン単体での値を記載。
この仕様は、改良のため予告無しに変更することがあります。

5.1 リコイルの取り付け

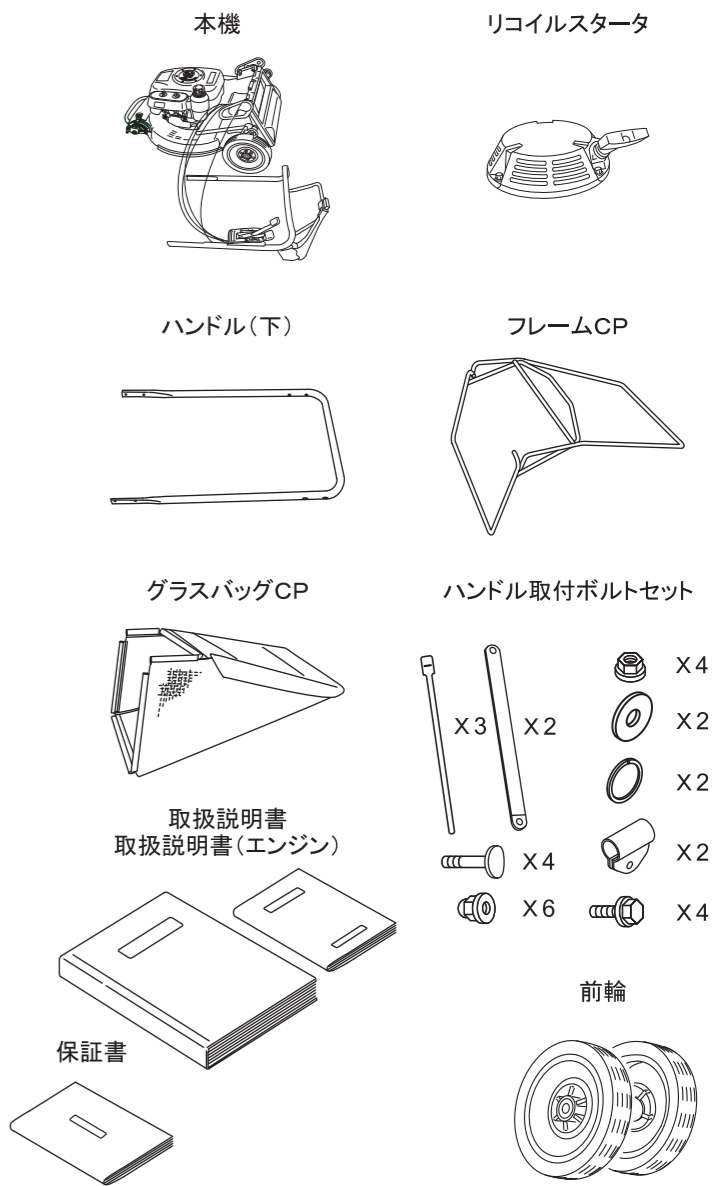
- エンジンに取り付けているボルト (A) を取り外します。
- リコイルを取り付けボルト (A) で、締め付けます。
※ (締め付けトルク: 5~7Nm)



6. 付属品一覧 (購入後にご確認ください)

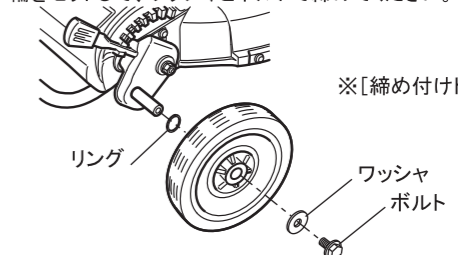
内容	数量
本機	1
リコイルスタータ	1
ハンドル (下)	1
フレームCP	1
グラスバッグCP	1
ハンドル取付ボルトセット	1
取扱説明書	1
取扱説明書 (エンジン)	1
前輪	2
保証書	1

梱包部品



前輪の組付け

- アジャスタの軸にリングを通してください。
- 車輪をセットして、ワッシャとボルトで締めてください。



※ [締め付けトルク: 13~17N・m]

7. 運転

7.1 運転前の準備・点検

芝刈り機を水平な場所に置いて作業してください。

⚠ 危険

点検を行うときは必ずエンジンを停止し、プラグキャップを外してください。

7.1.1 エンジンオイル量の点検

- 1 オイルタンクキャップ(U)を外し、オイルゲージを拭き取り、ねじ込まずに差し込んでください。(図-2参照)
- 2 オイルタンクキャップ(U)を外し、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか確認してください。
- 3 オイルが下限近くの場合、オイルを補給してください。
- 4 確認後はオイルタンクキャップ(U)をしっかりと閉めてください。

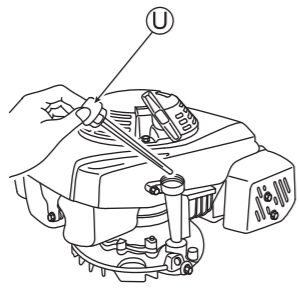


図-2

7.1.2 燃料の給油(作業時の注意は、3.4章を参照してください。)

- 1 燃料タンクキャップ(J)を開け、ガソリンを給油してください。もしガソリンがこぼれた場合は直ちに布で拭き取ってください。(図-3参照)
- 2 補給後、燃料タンクキャップ(J)をしっかりと閉めてください。

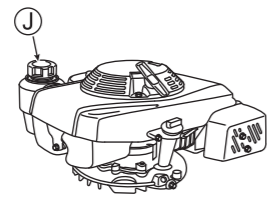


図-3

7.1.3 グラスバグの点検

グラスバグに穴が開いていたり、破れていないか確認してください。異常がある場合は、メーカー純正部品と交換してください。

7.1.4 各部の点検

- 1 全てのボルト・ナット・ネジ類が確実に締まっているか確認してください。
- 2 カバー・ガード類が確実に組み付いているか確認してください。ドライブシャフトのカバーは工具で外してください。
- 3 ブレードの点検は9.7、14章を参照してください。

7.2 エンジンの始動と停止

7.2.1 始動

- 1 プラグキャップ(Q)を取り付けてください(図-6参照)。
- 2 燃料コック(R)を"ON"にしてください(図-4参照)。
- 3 スロットルレバー(E)をチョーク"|"にしてください(図-5参照)。(エンジンが暖まっている時は、"☛"で起動します。)
- 4 ハウジングのステップに片足を置き、スタータノブ(V)を軽く引っ張って重くなる位置で一旦止め(図-6参照)、止めた位置から力強く引っ張るとエンジンがかかります。その後、スタータノブ(V)をゆっくり戻してください。

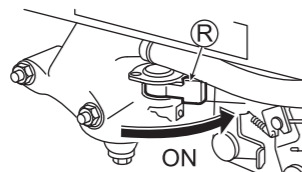


図-4

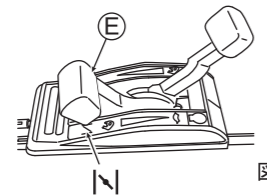


図-5

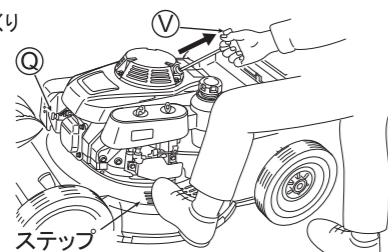


図-6

⚠ 注意

- ・スタータノブ(V)を引く時は、後方に人が居ないか確認してください。
- ・スタータノブ(V)はしっかり持って引っ張ってください。
- ・スタータノブ(V)はゆっくり戻してください。

- 5 暖機運転をしてください。エンジンが暖まればスロットルレバー(E)を"☛"にし、ブレードレバーを握ると、エンジンがストールします。(図-7参照)。

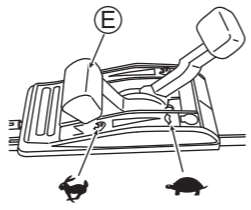


図-7

【注】

スロットルレバー(E)を"☛"で、ブレードレバーを握ると、エンジンがストールします。

7.2.2 停止

- 1 ブレードレバーと走行レバーを離してください。
- 2 スロットルレバー(E)を"STOP"にしてください(図-8参照)。
- 3 燃料コック(R)を"OFF"にしてください(図-9参照)。

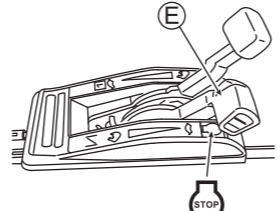


図-8

【注】

・絶対にスロットルレバー(E)を"|"の位置にしてエンジンを停止しないでください。エンジンの再起動が難しくなります。もしスロットルレバー(E)を"STOP"にしてもエンジンが停止しない場合は、"|"にしてエンジンを停止してください。

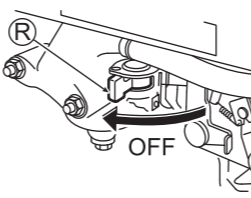


図-9

・スロットルレバー(E)を"☛"でブレードレバーを握ると、エンジンがストールします。

7.3 グラスバグの着脱

⚠ 注意

必ずエンジンを停止してください。ガード(G)はゆっくり開閉してください。指などを挟まないよう注意してください。

(図-10、-11、-12参照)

7.3.1 取り付け

- 1 ガード(G)を持ち上げ、フック(W)をハウジングに引っ掛けてください。
- 2 グラスバグ(F)が確実な位置に取り付けられていることを確認してください。

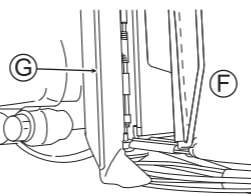


図-10

7.3.2 取り外し

- 1 ガード(G)を持ち上げ、フック(W)をハウジングから外してください。
- 2 ガード(G)はゆっくりと閉めてください。

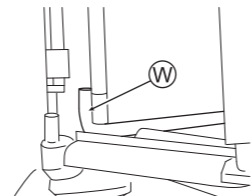


図-11

【注】

- ・グラスバグの目詰まりは収集性能を低下させます。
- ・湿ったグラスバグは目詰まりが早くなります。

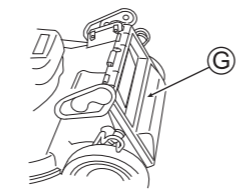


図-12

7.4 運転(刈取り・走行)

この取扱説明書の指示に従い、芝刈り作業を正しく安全に行ってください。

⚠ 警告

3章を含む安全に関する記載内容をよく理解した上で作業を行ってください。

⚠ 注意

各レバー類は確実に操作してください。

- 1 始動前の点検を行ってください。(7.1章参照)
- 2 刈取り作業をする際は、スロットルレバー(E)を"☛"にしてください。(図-13参照)

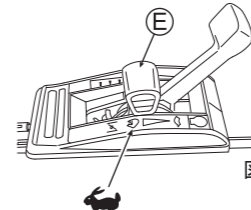


図-13

- 3 ブレードレバー(C)の黄色ボタンを押し、前方に倒すとブレードが回転します。(図-14参照)

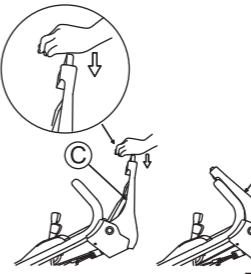


図-14

- 4 走行レバー(B)を前方に倒すと走行します。(図-15参照)

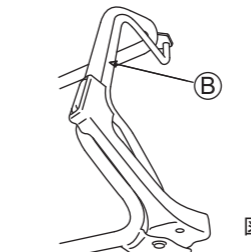


図-15

- 5 走行速度は変速レバー(D)で調整できます。(図-16参照) 芝生の状態、地形、作業者の歩速さにあわせて、お好みの走行スピードに調整してください。

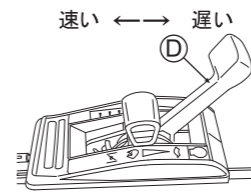


図-16

低速時(SLOW): 0 ~ 0.2 m/sec
高速時(FAST): 1.7 m/sec (エンジン回転数: 3,000rpm)

【注】

走行レバー(B)をゆっくりと前方に倒すことで、スムーズに走行が開始でき、タイヤのスリップによる芝生の痛みも防ぐことができます。

⚠ 注意

各レバーはハンドルに当たるまで倒してください。完全に倒していない状態で作業すると、部品の故障につながります。

【注】

作業場所や芝・草の状態に合わせ、速度を調整してください。ブレードレバー(C)は、安全のためボタンを押さずに操作するとブレードが回転しない構造になっています。

- 6 作業を中断または終了する時は、走行レバー(B)とブレードレバー(C)を戻し、スロットルレバー(E)を"STOP"にしてエンジンを停止してください。(図-17参照)

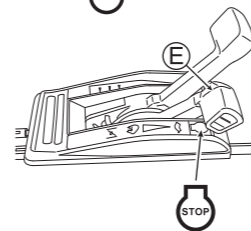


図-17

7.5 刈高さの調整

各車輪部分に設置されている刈高さ調整レバーで、刈高さを調整してください。

⚠ 注意

前側の刈高さ調整レバーを調整する時は、マフラーとエンジンに触れないよう注意してください。

- 1 エンジンを停止してください。
- 2 刈高さ調整レバー(H)をタイヤ側に倒し、ノッチ(くぼみ)(Z)から離します。(図-18、-19参照)

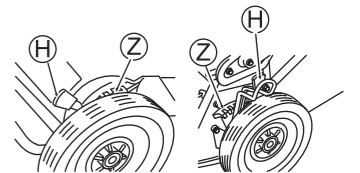


図-18

- 3 レバーを倒したまま、目標の高さのノッチ(Z)に刈高さ調整レバー(H)を差し込んでください。

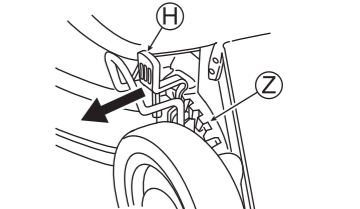


図-19

- 4 刈高さ調整レバー(H)は、すべて同じ高さのノッチ(Z)に差し込んでください。

8. 組付け

8.1 ハンドルの組付けと高さの調節

- 1 ハンドル下を本機に取り付けます。(ナイロンナット×4)(図-20参照)
- 2 ハンドル上をハンドル下に組み付け、ボルトとキャップナットで締め付けます。
- 3 ハウジングに組み付けているボルトを外し、バーを仮止めします。(図-21参照)
- 4 ハンガバンドをハンドル下に組み付けます。
- 5 バーをハンガバンドではさみ、ボルトとキャップナットで締め付けます。
- 6 ハウジングのボルトを締め付けます。

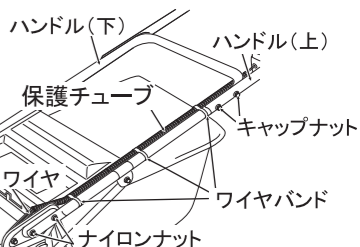


図-20

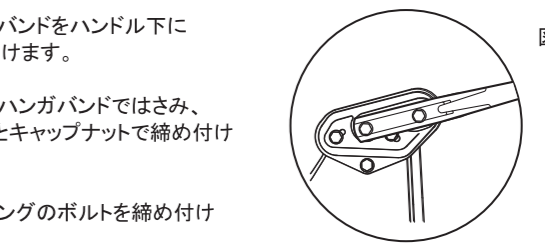


図-21

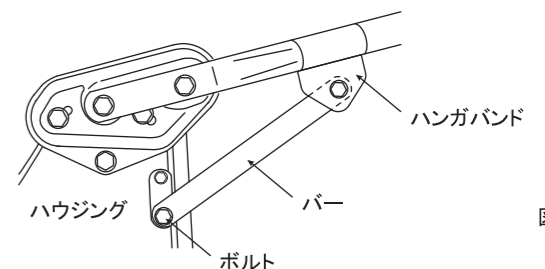


図-21

ハンドルは調整範囲内で無段階に調整できます。(図-22参照)

【注】

- ・ガードの開閉や作業の障害にならないよう、ケーブル類をワイヤバンドでハンドルに固定してください。
- ・ハンドルの高さを調整する場合は、ハンドル高さ調整ボルトを緩める前にハウジングのボルトを緩めてください



図-22